

UIFA JAPON NEWSLETTER



No. 96 Dec. 25, 2013

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

■主な内容

美しい草原とパワフルな人々—第17回UIFA世界大会@モンゴル

第17回UIFAモンゴル大会—交流雑感

地球温暖化とゲルーセッションを通して

UIFAモンゴル大会 パネル展示

UIFAモンゴル大会 ポストコングレスツアー

Poster Session: The Exhibition Panel of UIFA Japon.

被災地通信 (7) 被災地復興の進捗状況と現実

ニューズレターについてのアンケート結果の報告



会場でインタビューを受けるド・ラ・トゥール会長
(写真: 近藤)

美しい草原とパワフルな人々—第17回UIFA世界大会@モンゴル

17th UIFA World Congress in Mongolia: Beautiful Grasslands, Powerful People

松川 淳子

MATUKAWA Junko

モンゴル大会から帰国してすでに2カ月近く経っているが、まだあの「大草原」と「パワフルな」モンゴルの「衝撃」から脱してきていない。モンゴル初体験だった私は、豊かな大自然とそこで展開される人間の力強い営みに、圧倒されているのだということかもしれない。

モンゴル大会は、情報周知が遅れて私たちをほらはらさせたが、結局、予定通り開催された。ド・ラ・トゥール会長もさぞやほっとされたことと思う。情報の遅れは、参加者やプログラム構成にも影響があったのは当たり前で、外国勢の参加は、40人弱にとどまった。大会事務局発表によると、フランス6、韓国6、北朝鮮3、ベルギー2、米国2、ドイツ1、チュニジア1、日本15ということになっていて、日本の参加人数は主催国を除けば最大だった。しかし、その代りというべきか、北朝鮮から初めての参加があり、新しい交流の始まりとして、うれしいことだった。主催国モンゴルからは、男女ともに、若い世代から年配の世代までたくさんの建築家が参加し、日程による差もあるが、全体では立派な大会になったと思う。いまや遙か昔のことになった日本大会当時の悪戦苦闘を思い出し、彼らのここまでの準備に、心から感謝したいと思った。

大会テーマとなった「地球温暖化と戦う女性建築家」というテーマは、ウランバートルの現況をみると、適切な設定だったとうなづけるものがあり、「今が勝負どき」と考えたモンゴル勢の意気

込みが感じられる気もした。9月3日、閉会の前に発表された「ウランバートル宣言」では、「女性建築家は、知識の共有と交歓に務め、自然にやさしい材料を使うよう努力し、健康で安全な建築を創る力は何かを考え、自然を守るためのまちづくりに建築家として力をいれよう」との趣旨で作られた。この「ウランバートル宣言」は、さらに形を整え、裏付けデータを入れ、第17回UIFAウランバートル大会のホームページに載っている。

首都ウランバートルは、「草原に作られた国」だったからか、「歴史を感じさせるまち並み」というものがない。大きな広場や旧ソ連時代の大きな建物が、個別にその威容を誇っている。街を覆う開発ラッシュは、埃とデコボコ道とに象徴され、朝の散歩のときに、参加した河内さんから、「上を見て歩いたりしないように！穴に落ちて足をくじくよ！」と注意されたし、添乗してくれたイシゲさんからは、「モンゴルには、バリアフリーという言葉が全くない、まちづくりはバリアフリーから始まることをみなさん、言ってください！」ということだった。

郊外に広がる美しい大平原、そこに生きる馬や牛やヤギやヤクや羊…。野生の馬やレッドブックに載る動物を何種類も擁する国立公園、伝統芸能、伝統工芸、遊牧の民のおもてなし等々、こうした美しい資源と国家挙げての開発とのバランスを保つ確かな知恵が必要なのである。私たち女性建築家もその任務から例外ではない。



スフバートル広場のチンギス・ハーン像の前で

目に付くあらゆるモンゴル関係の書物も手当たり次第読んだ。そして、『初めまして、私は〇〇と申します。』（ザー、タニルツィヤー ナマイグ〇〇グテグ）。『有難う』（バイルラー）、『さようなら』（バイルタイ）などの片言モンゴル語も少しかじり大会準備をした心算だったが、想像した私の中のモンゴル像は、成田から飛行時間 5 時間半で一変した。そこは活力漲る地下資源豊富な発展途上国で、広大な自然条件に向き合い文化遺産も残し足早に近代国家へ走る姿があり、戦後の日本と重なった。大会テーマは『地球温暖化に於ける女性建築家の果たす役割』だった。

何時も参加のチュニジアや韓国、会長ソランジュとの再会には特別な嬉しさがある。しかし、歴史を劇化した賑やかなオープニング。ポスター展示、少ないセッション数の合間に旧知の友人との交流は可成り難しかった。

北朝鮮から 3 名の女性建築家 (1 名は通訳) の初参加があったが、残念ながら接点を持つことができなかった。隣国中国やロシアの参加も無く欧州勢も少ないのは残念だったが、各種ディナーで同席だったモンゴル会員と笑顔と片言で交流のひと時を持つことができた。モンゴルの組織体制は日本の JIA や UIA に似ている。トップの男性の下でさりげなく女性が働いている。

これからがモンゴルの女性建築家との交流がスタート

するのではないだろうか。さまざまな伝統文化に触れ、数々のおもてなしを受けながら新しいモンゴルの友人を作ることが出来る得難い大会だった。と、書いてこの稿を終わらせた夜パソコンを開くと、4 日タモンゴルのディナーで同席した女性建築家 U さんからメールが日本語であった。内容はもっと両国の建築に対する意見交換し建築技術等互いに勉強し、交流をしたい・・・と。私は小躍りしてすぐ返信した。通訳役を通す返信は未だないが楽しみである。



郊外の子どもキャンプ場での交流パーティ「建築家の夕べ」(写真:宮本)

地球温暖化とゲル—セッションを通して Session on Global Warming and Gels

安武 敦子

YASUTAKE Atsuko

モンゴルの住まいと言えばゲルですが、ウランバートル市内のビルの谷間に、郊外に、そして草原にとゲルをあちこちで見ることができます。セッションを通してモンゴルではゲルの行く末をどう設定するかも重要なテーマであることが伺えました。さてその各国の発表は 9 月 3 日よりスタート。国会議事堂での基調講演から始まりました。

基調講演は 3 名。モンゴルの環境大臣の S.Oyun 氏から、この大会のテーマである地球温暖化削減に「建築」の貢献がいかに大切かといったお話から。一般の建物だけでなく冬季にストーブを使用するゲルにも対策が必要という点がモンゴルらしい点です。2 人目はドナ氏、女性建築家のパイオニアについて、そして松川会長の東日本大震災の支援のお話と続き、会場はモンゴルの建築家や建築を学ぶ学生さんと思われる方たちがたくさん聴講していました。

各セッションは会場を移して TUUSHIN HOTEL で 2 日間にわたって開催。まず東日本大震災支援の一連の日本の発表からスタート。正宗量子さんはどこでもカフェを、松川会長はだれでもフォトグラファーを、稲垣弘子さんは新地町の住宅相談について。宮本伸子さんはものづくり大学の OG の活躍、そして私は環境対策には歩行者空間が大切という視点から、古写真を元に歩行者目線の看板コントロールについて話しました。

2 日目は初日の予定だった矢加部雅子さんの小さな木

造の住まいのお話から。モンゴルの Oyunbleg.Z 氏は、モンゴルの冬はマイナス 25 度が半年続くような過酷な環境であり、自然の石が割れる現象や、草原が砂漠化している現象など環境にどう対峙していくのかというお話がありました。山本佳世子さんは北海道下川町のバイオマスの町について発表、その取組みは多くの方を惹きつけ、発表後たくさんの質問を受けていました。その後、UNDRAA.Daajav によるゲルとは何か。古い時代からあったことは知っていましたが、宮殿のようなゲルがあったこと、17 世紀にフェルトを用いたゲルが開発されたことなど知らないこともたくさんあり、ゲルという居住文化を誇りとしていることがよく分かりました。



国会議事堂で基調講演する松川会長 (写真:近藤)

2013年UIFAの世界大会はモンゴルのウランバートルで開かれました。展示は文化交流センターの1階と2階を使って開催されました。私は2日ほど遅れていったのでお手伝いできませんでしたが9月2日(月)に展示の準備が行われました。各人のパネルを始め、UIFA JAPONの巡回展の年表や女性建築家のパイオニアの展示なども準備されました。

9月3日(火)は国会議事堂の大会議室にてオープニングセレモニーが開かれたあとバスにて文化交流センターに移動しました。

文化交流センターには1階と2階にパネル展示や模型、アーティストの作品などが所せましと展示されていました。最初にパネル展示オープニングセレモニーが2階で催されました。モンゴルの方たちの挨拶、会長ド・ラトゥールさんの挨拶、子どもや若い音楽家たちのクラシック音楽の演奏も行われ、とてもよい雰囲気でした。

1階はモンゴルの方たちの展示でまだまだこれからモンゴルの都市づくりは進むという内容で新しい空港計画や住宅計画などがとても大胆な構想で展示されていました。パネルあり模型ありと多様な展示でした。私たち日本人の感想としてはなかなか緑化も難しい土地柄ではあるが、単に開発でなく環境共生の発想も入れた開発であってほしいと思いました。

2階には私たち日本人の展示や各国の展示がされていました。私たちの展示の出展者はUIFA JAPON、松川、正宗、矢賀部、小渡、吉田(洋)でした。また2階にはモンゴルの若いアーティストの作品も並べられていました。立体的に展示がしてあったのが印象的でした。

それぞれの展示の前でモンゴルやその他の国の方たちと交流が進み、お互いにパネルの前で記念写真を撮ったりしました。それは1階のモンゴルの方たちの展示も同じです。やはり展示はコミュニケーションがとりやすく、とても楽しい雰囲気でした。



展示パネルの前が交流の場に(写真:松川)

9月6日、7日、8日、UIFA モンゴル大会のポストコングレスツアーに参加した。このツアーは従来の全員がバスを連ねて行く大会と異なり、6日は日本人グループの為の通訳ガイド付きのバスで、7日と8日はモンゴルの建築家サラさんの好意でサラさん達の車で、大会事務局が企画したコースを巡る、というものだった。

9月6日、私達日本人一行12人は、ウランバートル東方約60kmにあるトレルジへ行った。トール川の上流の丘陵地帯にある、人気の観光スポットだ。ホテルを出てから約2時間で、その夜宿泊するハートレルジツーリストキャンプに着いた。ゆるやかな丘陵の裾に、3列に規則正しく配置された白いゲルが約30棟程。別棟としてレストラン棟、洗面所棟があった。

昼食後、乗馬に出かけた。皆一団となって、草原をゆるゆると進む馬上の時間を1時間程楽しんだ。乗馬からの帰り道、草叢の中にエーデルワイスに似た白い花を見つけたのは嬉しかった。

その夜、初めてのゲルでの就寝。寝る前にストーブの火をつけに来てくれた。煙突はゲルの天窓から外に突き出ている。木片はよく燃えて、ゲルの中は暖かだった。

9月7日、帰国する8人は早朝に発って行き、残ったのは4人。キャンプ地にやってきたドナさん夫妻、迎えに来てくれたサラさんと息子さん、この8人が、サラさんと息子さんがそれぞれ運転する車に分乗して二日間を一緒に過ごした。

キャンプ地を9時頃に出発し、1時間程のところにあるチンギスハーン像を見に行った。高さ40mという銀色に光る馬上のチンギスハーン像は、近くに行かなければ、その巨大さを実感出来ない。ここで、ド・ラ・トゥールさんや他の大会参加者達に会った。

ウランバートル市内に戻る途中で、昨年竣工したばかりの、サラさん設計のラマ教寺院を見学した。

昼食は、大会参加者が一堂に会して、会議が行われたトリンホテルで。ド・ラ・トゥールさんや韓国の人達に別れの挨拶をした。

昼食後、ウランバートル西方約95kmにあるHSTAI国立公園へ行った。20数棟のゲルがあるツーリストキャンプ地。国立公園を紹介する展示棟があった。その後野生の馬を見物に行った。夜は、満天の星空。ストーブの火が燃える暖かなゲルでの2回目の宿泊だった。

9月8日、遅い出発で、草原の中の幹線道路をウランバートルへ戻った。その夜、ヨットの帆のかたちをした高層ビル、ブルースカイタワーの最上階27階のラウンジで、美しい夜景を見ながら、8人でしばし歓談をした。モンゴルでの最後の夜だった。



ヤクに乗ってモンゴルの草原をゆるゆる進む筆者(写真:稲垣)

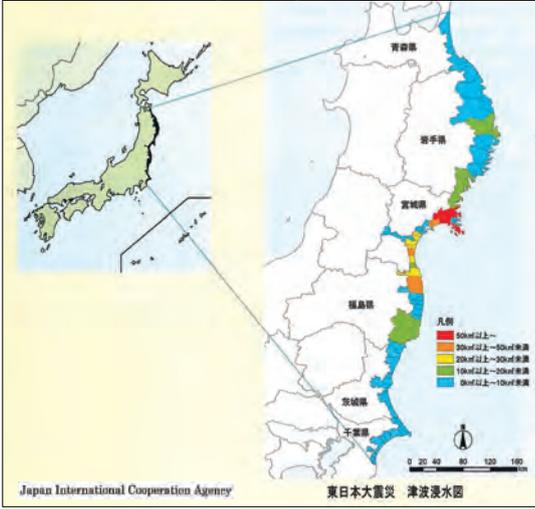


What Can We Do to Support the Disaster Area ?

—The Great East Japan Earthquake and Support Activities by UIFA JAPON, in Appreciation of the Support from All over the World —

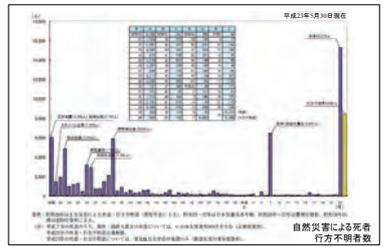
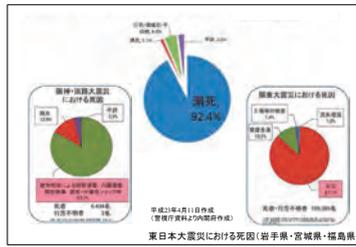
1. The Earthquake and Support Activities by UIFA JAPON UIFA JAPON

Features of the Great East Japan Earthquake



- (1) Super-wide area: Disaster sites covered a wide area over 500 km north to south due to the occurrence of a massive tsunami (Rupture area extending 400 km north to south and 200 km east to west; 9.0 Mw)
- (2) Complexity: Groud motion + Tsunami + Fire disaster + Nuclear disaster
- (3) Disaster hit small, local towns and settlements hosting aging societies:
 - The road to recovery and reconstruction is expected to be tough.
 - (The Great Hanshin Earthquake)
 - Large cities and cities and settlements in their surrounding areas were affected.
 - (The Great East Japan Earthquake)
 - Many small towns and settlements away from large cities were affected.

In Japan, economic strength has declined, population aging has progressed, and the unemployment rate has increased in comparison to the time when the Great Hanshin Earthquake struck.

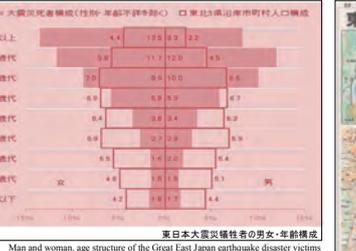


Features of the Great East Japan Earthquake

Complexity

外国の新聞も、大きく報道した「火災」

Complexity—FIRE



東日本大震災 地図で見る津波の被害

500平方キロ 浸水の範囲

10メートル超級 海岸に迫る

"Do-ko-de-mo Café"



"Do-ko-de-mo Café"



"Da-re-de-mo Photographer"



Donation of Japanese traditional drums to Nagahora-temporary house (Rikuzentakata City)



Housing consultation in Shinchi-machi, Fukushima Pref.



Support from friends all over the world is our power to promote these project--Thank you very much for your support !



What Can We Do to Support the Disaster Area ?

—The Great East Japan Earthquake and Support Activities by UIFA JAPON, in Appreciation of the Support from All over the World —

2 “Do-ko-de-mo Café” (We open café Everywhere in Damaged Area)

UIFA JAPON Persons in charge:
Sachiko IDE, Nobuko MIYAMOTO, Kazuko MASAMUNE

0 Why did we begin the “Do-ko-de-mo Café”?

We continued support at the tea ceremony of the reconstruction aid after Chetsu-in-Niigata earthquake disaster area for about 8 years. **The earthquake and Tsunami disaster changed** completely in the life of many people. Inconvenient life in the temporary housing complex does not have a place where the people can take relieved vest. **Temporary Housing** : The café restores the connection of people and provides the time and space of relax. And I aimed at becoming “the place of talks for the reconstruction”.



Sai-no-kami Hatsu-gama in **HOSSE**

1 The first activity of the “Do-ko-de-mo Café”

Plan : We plan the first Do-ko-de-mo café by the biggest place among three places of temporary housing of Iwaizumi-Town. We bring the cooperation plan with the town office to a conclusion. We prepared the thing necessary to use the inside and outside of the meeting place of temporary housing complex. And then, we started the Do-ko-de-mo café project.



Temporary housing complex of **Iwaizumi-town**

2 About the ‘Shi-tsu-ra-i’ and the menu of the Do-ko-de-mo café

For the people to enjoy the café. The equipment that indoor auspicious decoration for gifts is hard prepares for a hanging scroll, some flowers, scarlet carpet after the fashion of a tea-ceremony room. A menu is powdered green tea : The tea-ceremony room space condensed outlook on Japanese space and it was movable. So the tea-ceremony room space is fit for our café.



Support Things.

3 About Support Things.

A thing necessary for daily life is short at the damaged area caused by the tsunami
A necessary thing changes by time. For the first time they need foods. And then clothes according to the season. And many life support things like cups, plates, bowls, and so on.
However, there are few places in temporary housing, too.
So when they move to permanent houses, new demand for furniture and others will occur.

4 The café became to Do-ko-de-mo means everywhere-1.

In Iwaizumi-town, the Café became to three places.
In Tomita-machi Temporary Housing Complex in Koriyama-city, we support the O-da-ga-i-sa-ma-center’s café with tea ceremony.
In Minami-Ichome Temporary Housing Complex in Koriyama-city, we opened the Do-ko-de-mo Café in the elderly person support base “A-sa-ka-no-mo-ri Yu-fu-ne”



Iwaizumi

Konari

Omoto

5 The café became to Do-ko-de-mo means everywhere-2.

In Old Ki-sa-I High School in Saitama prefecture, there have been evacuation center from Futaba-town of Fukushima prefecture, where some damage people opened “F Café Ju-ju”, and we support their café with tea ceremony.



Koriyama O-da-ga-i-sa-ma

Saitama Ki-sa-i Kazo

6 The help that increased - Let's do it together.

From the second café, many people including children and public officer in temporary housing complex helped running the café together such as preparations, putting in order, and service.
We have the helper of the café in cooperation with the Women’s Committee of the Iwate Association of Architects and Building Engineers. **Some of the people will stand to open their original café or tea party.**



Let's do it together in Iwaizumi

7 After 2 and a half years from the 3.11, but they need the Do-ko-de-mo Café now.

Continuation in the future—The Café in the permanent houses. And long time will be needed in temporary houses in Fukushima Prefecture.

We want to continue to work hard on this project.
Thank you for your continued support.



permanent houses are under construction

Let's do it together in Koriyama Yu-hu-ne



What Can We Do to Support the Disaster Area ?

—The Great East Japan Earthquake and Support Activities by UIFA JAPON, in Appreciation of the Support from All over the World —

3. "Da-re-de-mo Photographer" (We are the photographers!)

UIFA JAPON

The framework of the "Da-re-de-mo Photographer"



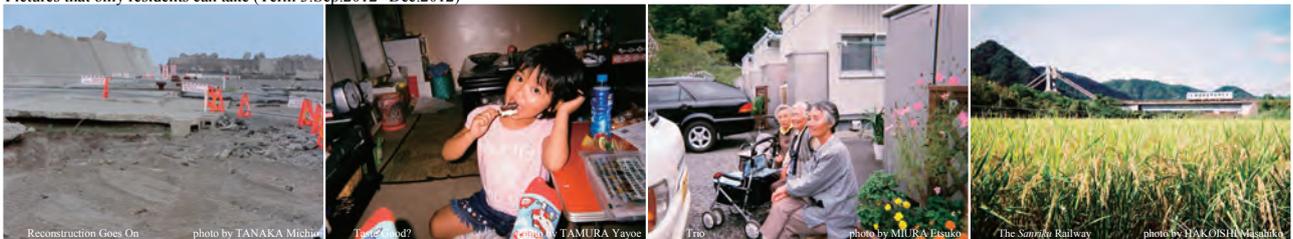
Pictures that only residents can take (Term 1:Dec.2011--Jan.2012)



Pictures that only residents can take (Term 2:May 2012--Sep.2012)



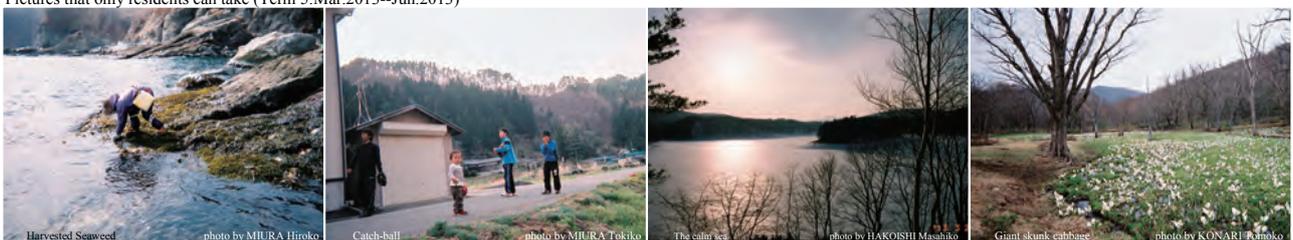
Pictures that only residents can take (Term 3:Sep.2012--Dec.2012)



Pictures that only residents can take (Term 4:Dec.2012--Mar.2013)



Pictures that only residents can take (Term 5:Mar.2013--Jun.2013)





What Can We Do to Support the Disaster Area ?

-The Great East Japan Earthquake and Support Activities by UIFA JAPON, in Appreciation of the Support from All over the World -

4. About Consultation at Shinchi-machi, Fukushima Pref.

UIFA JAPON Persons in charge:
Haruko Usui, Hiroko Inagaki



Village	Completed house	Remains complete destroyed house	Waiting house total
Raitama/Sakuta	227	71	79
Tsurui	144	159	159
Otsutsuma	145	101	110
Nakajima	105	70	80
Ogawa	236	48	79
Imaiyama	40	18	26
Ather	1740	1	65
Total	2593	468	596

Disaster



Inundation area complete destruction



Before Disaster



Six months after Disaster

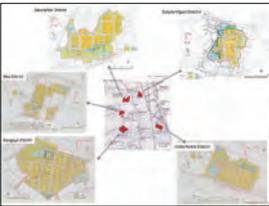


Shinchi Station suffered tsunami.



Before there was the rice field but nothing.

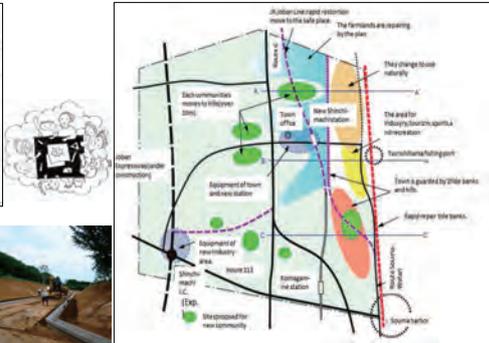
This project provides people with consultation on planning the buiding of permanent housing and relocating from temporary housing.
 ☆We support inhabitants to be able to work on the house rebuilding forward.
 ☆We confirm what is important for the family and suggest that there are various viewpoints.
 ☆Their before houses are often the large site and the house is big. So we suggest to the rational site use and a compact house.



Land utility plan of district



Creation construction

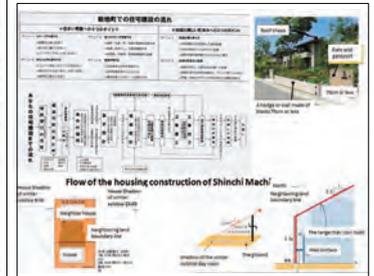


The new land use two line banks

Interview card

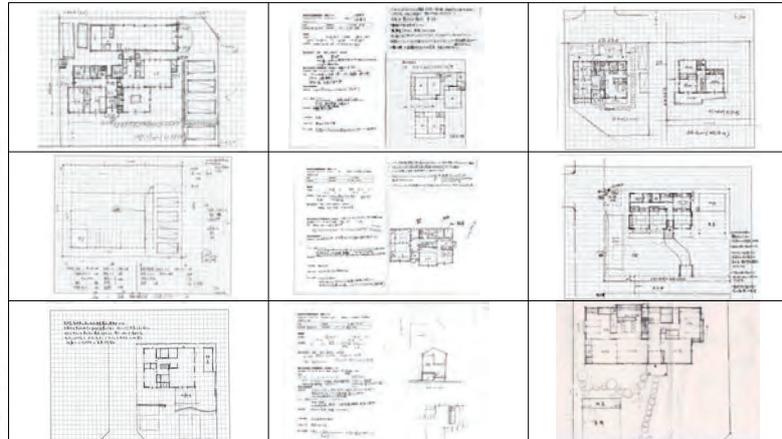
No.	Area name	Address	Number of families	Number of people	The date they moved	Number of house left of the town
1	Dogura-cho	Dogura-cho Kametani-1	40	201	2011 April 23	0
2	Dogura-cho	Dogura-cho Kametani-2	102	510	2011 May 2	0
3	Imabata	Imabata-cho Murohata-2	54	271	2011 May 13	0
4	Imabata	Imabata-cho Murohata-1	46	231	2011 May 13	2
5	Imabata	Imabata-cho Murohata-3	22	111	2011 May 23	0
6	Imabata	Imabata-cho Murohata-4	40	200	2011 May 28	0
7	Imabata	Imabata-cho Murohata-5	31	156	2011 June 13	2
8	Imabata	Imabata-cho Murohata-6	31	156	2011 June 13	2
9	Imabata	Imabata-cho Murohata-7	31	156	2011 June 13	2
10	Imabata	Imabata-cho Murohata-8	130	650	2011 August 7	100
Total			553	2765		104

Emergency temporary house



Flow of the housing construction of Shinchi-machi

The list of consultation NO.1



Housing Plan of Consultation

The list of consultation NO.2



scenery of consulting

Shinchi-machi town office

UIFA JAPON 事務局
〒102-0083
東京都千代田区麹町 2-5-4
第2 押田ビル (株)生活構造研究所内
Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866
E-mail: uifa@LIQL.CO.JP
URL: http://uifa-japon.com
発行 2013年12月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON
c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUANTITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083
PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866
URL :http://uifa-japon.com

被災地通信 (7)

被災地復興の進捗状況と現実
Report on the Disaster Recovery Progress

岩井 紘子
IWAI Hiroko

被災地宮城は全壊 8.3 万棟、半壊 13.5 万棟、合わせて約 22 万棟という大変な棟数であるが、県は昨年 12 月、32 年度までの 10 年間に 7.2 万棟を整備するという「復興住宅計画」を作成。このうち 15,755 戸を公的住宅として 5 年後の平成 27 年度までに完了する計画である。しかし 25 年 7 月現在、事業着手しているのは 8,288 戸、着手率 52.6% であり、完成率 0.6% の 82 戸という状況。千年一遇とばかり「思い切った事をしないと日本の水産業、農業は持たない。震災は大きなピンチだが同時に大きなチャンス。震災がなければ漁港の再編成、農業の大規模化は出来なかった。単に元に戻す復興ではなく、創造的な復興を」という知事の掛け声がほとんど空しい。

24 年度の家屋メーカー、工務店受注状況は 50 戸位が大半だが 100 ~ 300 戸もこなしているという建設ラッシュ。案の定、建てたは良いが引き渡しに当り、工事の杜撰(ずさん)さが目に余り、専門家の立場で見て欲しいとの相談がきた。規模、グレードに差があるにしても建設業界の無気力地帯化が懸念される。一方 2 年半の仮設暮らしで、被災者意識にも格差が生じてきている。最後まで仮設住宅に住まわねばならない、置いてきぼりの弱者が増えつつある実態は、先行き不透明な、実効性の薄い復興施策の何物でもない。住民説明の前に計画有りきで、強制执行的集団移転や旧態依然の土地地区画割りの団地作り、あれよあれよの防潮堤や土地高上げの大土木政策は、被災地住民感情無視も甚だしい。まずは全員公営住宅に住ませ、後々自力再建を図らせるべきだと思うし、それが復興の一步でなかろうか。住民主体の集団移転計画を実現している気仙沼市本吉町小泉地区のような例もある。心ある復興事業が望まれる。



杭の有る RC 造の建物も根こそぎ倒れた

役員会報告

第5回2013年9月26日(水) 第3回8月24日(土)郡山どこでもカフェ開催報告(参加者10名) 8月26日NL95号発刊 NLについてのアンケートを送付 9月1日~7日UIFA第17回世界大会モンゴルにて開催(日本からの参加者15名) 報告 第59回海外交流会(モンゴル大会報告会)準備 第60回海外交流会企画 第3回新地町住宅相談会講座準備 12月岩泉だれでもフォトグラフィカメラ募集/第6回10月22日(火) 第59回海外交流会(モンゴル大会報告会)準備 第60回海外交流会の企画 だれでもフォトグラフィカメラ募集状況(18台) 9月20・21日岩泉どこでもカフェ開催報告 NLについてのアンケート調査中間報告/第7回11月20日(水) 第59回海外交流会(モンゴル大会報告会)準備 第60回海外交流会の企画 NLについてのアンケート調

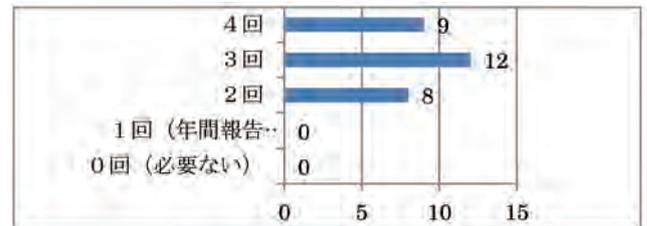
ニューズレターについてのアンケート結果の報告

UIFA JAPON NEWSLETTER 編集部

UIFA JAPON NEWSLETTER (ニューズレター) は、2013年8月25日に第95号を発刊。1992年の第1号以来、20年の節目をむかえた。この機会に、会員の皆様にアンケートをお願いし、発行回数、内容、紙面の体裁、ニューズレター編集への参加について率直なご意見を頂いた。回答30通/発送88通。

■発行回数：年3回発行、英文併記号年1回が望まれている。(以下のグラフはアンケートの集計結果)

【年間発行回数】



■内容：

①「印象に残る特集記事」には、95号 住宅を継承するための方法、91号 東日本大震災 -UIFAの活動と方向性-、77号 UIFA大会と中原暢子先生に、多数の回答があった。②「印象に残るシリーズ」では、被災地通信(89号~95号)に27名のチェックが入った。③「ニューズレターに掲載してほしい記事」では、海外会員情報、UIFA JAPONの活動、会員の仕事の希望が多数あった。

■紙面の体裁：文字の大きさや量、写真の大きさや量はいずれも丁度いいとの意見が多数。建築図面はあったほうがいい、レイアウトも丁度いいとの意見であった。カラーでわかりやすいとの意見も。

■ニューズレター編集への参加：編集への参加を希望するという意見よりは、担当への労いの意見があった。

■自由なご意見：

ニューズレターは、日本各地からの参加があるのでUIFAとのつながりとして重要、交流を深めるための工夫がほしいとの意見があった。内容は情報交換の場として、活動の記録として重要とのご意見。活動に直接的に参加はできないが、会員の活動から間接的に影響を受けているとのコメントもあり。

■アンケート結果をうけて：

会員相互の交流そして記録、外部への発信のために、ニューズレターの役割は大きい。内容も、海外会員情報、UIFA JAPONの活動、会員の仕事等の情報や、建築情報・見学情報も、というご意見などを反映させ、今の時代の会員ニーズに即した紙面づくりを行い、年3回発行、内1号は英文併記号として進めていきたい。(発行月：4月、8月、12月(8月を英文併記号とする))(御船杏里)

査報告NL発行回数年3回(うち1回を英語併記)提案 海外交流会の年3回(うち1回総会)提案 11月2・3日IAWAへ鈴木喜美子さん函面を持参 UIFA JAPONへの寄付金募集

■ 編集後記

晴天だが凍つく撮影会、だれでもフォトグラフィを指導くださる橋本さんの講評はどこまでも暖かかった(井出)あつという間に年末です(薄井)今年も大晦日は伊達巻き、栗きんとん作り。後はご近所さんとの物々交換でいたい揃います(飯田)行かなくても、伝わるモンゴル、盛り上がり(須永)UIFA Japan activities are still making a difference in Tohoku. (Karen)年の瀬に、父母の年輪、我が身に思う(石黒)1号から95号まで「あ・つ・い・お・つ・き・あ・い」96号は「お・た・の・し・み」ます。ありがとう(渡邊)